



あまの 四季彩

網野町の人口(人)

	R1.7末	R1.8末	前月比
0~14歳	1,239	1,232	-7
15~64歳	6,725	6,731	6
65歳~	4,829	4,834	5
合計	12,793	12,797	4

同志社大学

浜詰遺跡で約16,000年前の遺物確認 <8/17~31>

同志社大学考古学研究室(水之江和同教授)の学生(延べ20人)が、今年度から令和3年度まで、3か年計画で浜詰遺跡の発掘調査を行います。



学生の説明を熱心に聞く見学者のみなさん

学生たちは網野町内で家を借り“自炊”をしながら合宿を行い、夏真っ盛りのなか2週間の発掘調査を行いました。

現地見学会(8/31)には、地元住民をはじめ約50人が訪れ、学生が約16,000年前の旧石器時代終末期の遺物が確認されたことを報告すると、どよめきが上がりました。これまで京都府北部で旧石器時代終末期の生活面の一部が出土した例はなく、今回が初めてだということです。

調査に参加した学生たちは、地元浜詰区による協力や近隣住民の

方々から多くの差し入れを頂いたことに、とても感謝をしていました。



ここはどこ?

浜詰遺跡

縄文時代中期末葉~後期初頭(約4,000年前)の遺跡で、貝塚や竪穴住居が発見されています。浜詰遺跡には、竪穴式住居が復元され間近で見ることができます。

大谷大学

琴引浜・八丁浜・小浜でフィールドワーク <9/1~7>

大谷大学社会学部コミュニティデザイン学科(鈴木寿志教授)の学生(延べ12人)が、深刻な海洋汚染をもたらしている「マイクロプラスチック」(直径5mm以下の微粒子)の海浜調査に取り組みました。

琴引浜などで清掃活動とともに海面や砂浜への漂着状況、釣上げた魚の内臓を調査しました。今後も継続的な調査活動を通して実態を明らかにし、環境保全の意識啓発にもつながる活動にしたいとしています。

また、4日(水)には、水之江コミュニティセンターで現地調査報告会が行われ、小浜のマブ川下流域に打ち上げられたペットボトルを分類した結果、中国製のものが半数を占めており、地球規模での海洋ゴミによる汚染状況が報告されました。



プラスチック(左)と貝殻片(右)は判別困難!

参加した学生は「深刻な問題。埋まったロープが取り切れなかった」「琴引浜がきれいでもゴミがほとんどなく、地元の方の努力がすごいと感じた」と感想を述べていました。



報告会での学生による発表

羽衣国際大学

島津小学校でCM映像制作 <8/27>

羽衣国際大学(村上清身教授)は、平成24年から大宮町奥大野地区と交流を始め、映像コンテンツの活用による地域活性化に取り組んでいます。



授業風景を撮影する学生と6年生の皆さん

島津小学校の6年生は、総合的な学習の時間に網野町の美しい景色やおいしい食べ物などについて学び、その魅力を発信するため、映像を専門的に学んでいる羽衣国際大学の力を借りて「CM映像」を作成しました。

撮影を終えた児童からは「緊張したけど最後はみんなでしっかり終わってよかった」「緊張して顔が赤くなったけど、みんな楽しめて良い1日が過ごせた」といった感想が聞かれました。また、学生は「みんなが

協力して、さあ作るぞという気持ちが伝わってきて嬉しかった」と話し、映像制作を通じた貴重な交流の時間となりました。

